

## 平成19年1月の解説（週間天気予報）

### 【1月の天候状況】

上旬後半に低気圧が発達しながら通過した後、月半ばにかけて弱い冬型の気圧配置となり、北日本、東日本の日本海側の地方では雪や雨が降る日が多くなりましたが、その他の地方では晴れました。月の後半は低気圧や南海上に停滞した前線の影響を受けて、西日本を中心に曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本の太平洋側と東日本の日本海側で平年より多く、その他の地方ではほぼ平年並みでした。降水量は北日本、東日本の日本海側と西日本で平年より少なく、北日本、東日本の太平洋側で平年より多く平年の300%を超えた観測地点もありました。気温はほぼ全国的に平年より高く、北日本では多くの観測地点で平年より2以上高くなりました。

### 【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より4ポイント高い76%でした。ほとんどの地方で例年より高く、特に北海道、東海、四国、九州北部地方では7から10ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全ての地方で例年より小さく、特に近畿、中国、四国、九州北部地方では0.6から0.7小さくなり全国平均では例年より0.4小さい1.8でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差もほとんどの地方で例年より小さく、特に北海道、中国、九州南部地方では0.5から0.7小さくなり、全国平均では例年より0.3小さい1.8でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【1月の週間天気予報から】

1月26日から27日にかけて低気圧が日本付近を通過しました。20日(7日前)に発表した27日の週間天気予報で使用した資料(図1)では、低気圧が三陸沖と日本海にあって、関東地方は低気圧の中に入っています。このため、この低気圧による雨は26日より27日の可能性が高いと予想し、20日に発表した週間天気予報では、東京地方の27日の天気を「くもり一時雨」としました。

実況の27日09時の天気図(図2)では、低気圧の位置などが図1の天気図に大変良く似ていますが、時間的には予想より半日ほど早く経過しています。このため、低気圧は26日のうちに関東地方を通過し、東京地方では26日の夕方から夜遅くにかけて雨が降り(図3)、20日に予想した27日には雨は降りませんでした。

数日前からの予想では、低気圧が通過するタイミングがずれることもあります。この例のように半日ほどずれると、降水があると予想した日が前の日や次の日になることもあります。

### 【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3月は日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過することが多くなります。低気圧が近づいてくると南風が吹いて気温が上がり、低気圧の通過後は北風が吹いて気温が下がります。このように大きな気温の変動を繰り返して次第に暖かくなります。3月に週間天気予報を利用される際は、天気とともに気温の変化にも注目して健康管理等にご利用下さい。

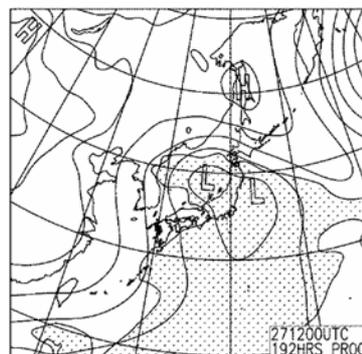


図1 20日の週間天気予報で使用した27日21時の予想気圧配置

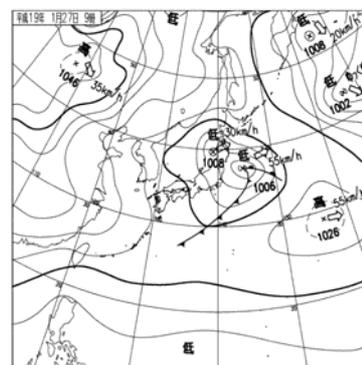


図2 2007年1月27日09時の実況地上天気図



図3 2007年1月26日21時のアメダスの前1時間降水量分布